

TSIホールディングス

生産・物流を効率化

サンエー・インターと 東京スタイルで統合

関連子会社を 通じ本格促進

TSIホールディングスは生産・物流業務の効率化を促進し、コスト競争力の向上をめざす。昨年9月1日に生産関連子会社TSI・プロダクション・ネットワーク（TSI・P・N、井上隆亮社長）を設立し、事業会社であるサンエー・インターナショナルと東京スタイルの生産・物流部門を統合した。今期（14年2月期）から、素材の共同調達や、仕入れ先、縫製工場の共有化、物流センターの相互活用などを本格的に進める。

TSI・P・Nは、TSIホールディングスが重複する事業
図る施策の一環として設立。サンエー・インターと東京スタイルの品質管理、貿易、物流部門

を一つにするなど段階的に組織の二元化を実施してきた。今期から「統合効果を本格的に発揮させるための施策」（井上社長）を進める。

域・ブランド別対応にし「2社で連動し、ブランド特性に応じたきめ細かな生産管理体制を組める」ようにした。さらに、サンエー・インターの生産管理担当者2人を東京スタイルに配置。サンエー・インターが取り組んできたOEM（相手先ブランドによる生産）・ODM（相手先ブランドによる設計・生産）機能を東京スタイルにも取り入れ、期中の企画・生産を拡大する。

仕入れや生産、物流・検品業務の連携も強める。一部主力素材の共同調達を今秋冬物から本格的に開始する。

共通素材を使うだけでなく、発注時期を早め同じ仕入れ先から一括して調達することで、コストを抑える。

東京スタイルの自社工場でサンエー・インター商品の生産も開始する。今夏物から、東京スタイルソーイング山之口（宮崎県）でレディスのワンピースなどの生産を始め、今後サンエー・インター専用のラインを作る。

物流センターは国内に計4カ所（サンエー・インター3、東京スタイル1）ある。例えば、東京スタイルの物流センターでサンエー・インターの百貨店向けブランドを扱うようにし、2社で共通する取引先百貨店に一括して商品を配送するなど運用を効率化する。

検品業務も一本化する。昨年9月から、東京スタイルがサンエー・インター指定検品所の活用を開始、今期から本格化する。東京スタイルの物流センターの検品業務は廃止した。店頭からの不良品の受け入れもサンエー・インターの都内の物流センター1カ所に集約し、合理化を図る。